



「人権教育管理職研修会に学ぶ」

校長 石岡秀久

6月29日鹿児島市の県総合教育センターで「人権教育」について研修して参りました。県内の管理職（教頭・校長等）2年目までが対象の研修会でした。午前中は講演が一つ、講義が一つありました。午後からは、グループに分かれ研究協議をしました。

私達は日常の生活で、人権教育・人権問題・人権侵害など「人権」という言葉に触れる機会が、子どもより大人になるにしたがって、昔より最近になって多くなってきているのではないのでしょうか。果たして「人権」とは何でしょうか。漠然としたイメージは、人それぞれが持っていることだと思います。

「人権」について、答申や法律では、次のように定義づけられています。

「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利—それが人権である。」

～人権擁護推進審議会答申（平成11年7月）から～

「人権とは、人間の尊厳に基づいて各人が持っている固有の権利であり、社会を構成する全ての人が、個人としての生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利である。」

～人権教育・啓発に関する基本計画（平成14年3月）から～

「生きていく中で大切な権利」だろうということは、理解できます。児童生徒に分かりやすい言葉で表現すると「自分の大切さとともに他の人の大切さも認めること。」になるかと思えます。

7月25日～7月31日「男女共同参画週間」＜鹿児島県＞

8月1日～8月31日「人権同和問題啓発強調月間」があります。ご家庭で

「人権」に関して、お話をしてくださる機会にしてみてくださいはでしょうか。

＜恩返し＞～ママディ・ケイタさんを偲んで～

27年前、彼は「偉大な人は小さな村から生まれる」といって三島村を選んでくれたそうです。故郷のバランドック村に似た雰囲気、の硫黄島でリ香さんたちにジャンベを教えてくださいました。それから、耕平さんや蓮君、哲太君をはじめ多くの三島小中学校生がジャンベを受け継いできてくれました。また、毅さん、綾さん、朝卓さん、幸代さん、浩幸さん、円さん、与子さん、紫寿代さん、由美さん、優子さんが入っている「あ・ぼ〜ら」の皆さんの演奏が港の出迎えや祭りのときの島の元気を作ってくれ、学園の子どもたちに目標を示してくれています。先日、毅さんから「演奏の時は、みんなでやるんだよ。みんなでできる速さで演奏して、お互いの音を聞きながら、息を合わせて作るんだよ。一回ごとに違うけど一回ずつ作っているんだよ」と教えてもらいました。

健一郎先生は、演奏が不慣れな子どもにも丁寧に接してくれます。少しずつできたことをほめてくれます。「教えること」の本質を感じることで、子どもたちはジャンベを演奏することでお互いを尊重し合いながら一つのことを成し遂げるといふ「人として大切なこと」を学んでいるようです。

偉大なる三島村の恩人ママディ・ケイタさんのご冥福を祈ります。



＜三島はひとつ＞～修学旅行・交流学习～

後期課程生徒は交流学习、前期課程は修学旅行で他の島の子どもたちと多くの時間を過ごしました。お互いのことを知り、認め合い、同じ三島村の学校に通うものとしての繋がりを深めました。もう同じ釜の飯を食った仲間です。



＜ありがとう先輩！＞～島の恵み～

後期課程生が硫黄岳で硫黄を採ってきました。大岩根さんに連れて行ってもらった噴出孔から、新鮮？な硫黄を採集してきました。蒸留を行ったあと、線香花火の材料とする予定です。生徒たちは硫黄島の息吹を感じて、元気をもらいました。夏の祭典に向けて燃え上がっています。



＜学校へ行こう！＞～お立ち寄り下さい～

「その3」あじさい読書週間：ガジュマルの木陰や木の上など思いの場所で読書しました。いつでもどうぞ。



「その4」色彩豊かな学園：学級園が充実してきました。サツマイモ、ミニトマト、スイカなど花が咲き、実をつけているようです。奇跡のヒマワリも植えてあります。ツバキ畑のお手入れの後にでも寄ってみてくださいね。



「その5」積極的熱中症対策：給食室前に麦茶が準備してあります。飲み放題です。のどが乾いたらお立ち寄りください。



三島硫黄島学園の様子はHPで。右のQRコードもしくは「みしまっ子」で検索。

